

マイマイガの若齢幼虫の特徴

原 秀 穂

昨年（1986）の夏，マイマイガの成虫が異常発生したため，今年は幼虫の大発生にともなう被害が心配されている。昨年の11月，関係支庁においてカラマツ造林地を対象に，卵塊調査による被害発生予察がおこなわれたが，その結果をみて，大発生が予想される地域では防除体制を強化していく必要がある。

マイマイガの防除としては，卵塊あるいは卵塊上の孵化幼虫の捕殺，または若齢幼虫に対する薬剤散布が主におこなわれている。山口（*参照）は，薬剤散布をおこなう場合は，5月下旬から6月上旬までに改めて被害発生予察を行い，経済性を考慮して防除要否を判定するよう勧めている。この予察方法は枝を切り取り，枝の長さで幼虫数を調べるという簡単なものである。山口によれば枝1m当たり1頭で50%の葉が被害を受ける。ところが，マイマイガの終齢幼虫は多くの図鑑に載っているが，予察の対象となる若齢幼虫については現在絶版である原色北海道森林病虫害図鑑（横田ら，1976）に写真がしめされているにすぎない。マイマイガ幼虫は若齢期と終齢期とで色彩が異なり（例えば，頭部は2齢では全体黒色だが，3齢以降ではオレンジ色で八の字の黒斑がある），またカラマツにはマイマイガに似た幼虫（いわゆるケムシ）が数種類生息するため，マイマイガの若齢幼虫数を正確に判定することは難しい。カラマツを食べるもっとも一般的なケムシの一つはノンネマイマイであるが，この種はマイマイガより体が小さく，摂食量は少ない。また，なかにはカラマツ葉ではなく樹皮上のコケ類を食べる無害なケムシもいる。このため，ケムシの種類を区別しないで総ケムシ数にマイマイガの防除基準をあてはめると被害量を過大に評価しかねない。

ここでは，カラマツ造林地で見かけるケムシ類5種を取り上げ，それらの若齢幼虫期（2～3齢）における区別点について述べる。

マイマイガ *Lymantria dispar praeterea* KARDAKOFF（図 - 1）

頭部は黒色。体は暗褐色で，太さはほぼ一様である。胸部3節背面に白色の大斑がある。腹部背面には白色あるいは黄白色の斑紋とオレンジ色の斑紋が交互にならんでいる。

ノンネマイマイ *Lymantria monacha* (LINNAEUS)（図 - 2）

マイマイガとは以下の点で異なる。体は暗灰褐色で，太い。胸部3節背面と腹部中央背面で淡色になる。オレンジ色の斑紋はない。

* 防除法については山口（1977）が北海道の森林保護（横田ら著，北方林業会）で詳述しているので参照されたい。

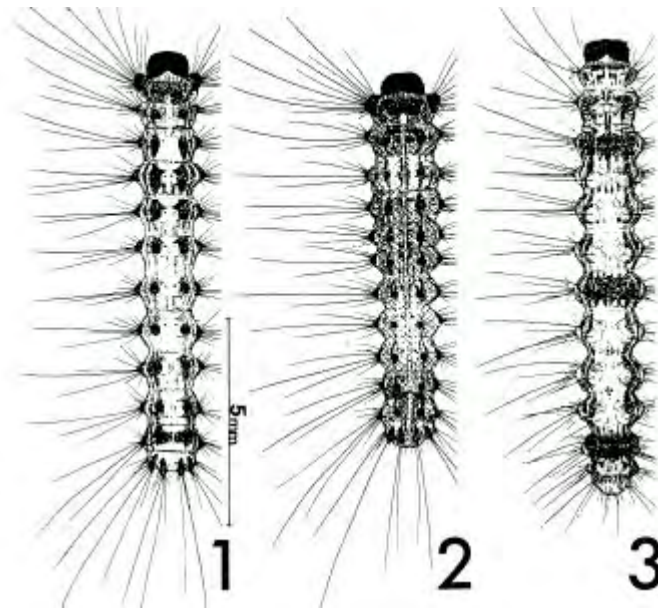


図 1 ~ 3 カラマツ上にみられるケムシ類幼虫 (背面図)
 1 マイマイガ (2 齢) 2 ノンネマイマイ (2 齢)
 3 ヨツボツホソバ (2 または 3 齢)



写真 アカモンドクガ (2 または 3 齢)
 1961 年 9 月, 上条一昭撮影。

アカモンドクガ *Orgyia recens approximans* BUTLER (写真)

体は黒褐色, 胸部 1 節背面両側, 胸部 2 ~ 3 節背面, 腹部 5 節背面, 腹部 6 ~ 8 節背面両側はオレンジ色。

ツガカレハ *Dendrolimus superans* (BUTLER)

若齢幼虫は, 終齢幼虫とほとんど変わらないので, 図鑑類を参照されたい。体は灰褐色で, 胸部 2 ~ 3 節背面に黒色の毛束を持つなどの点で, マイマイガと異なる。

ヨツボシホソバ *Lithosia quabra* LINNAEUS (図 - 3)

コケ類を食べる。体は黒褐色で, 背面で灰褐色, ただし, 胸部 3 節, 腹部 4 節, 腹端の背面は黒褐色である。

(昆虫野兎鼠科)